

ボランティアで地域に貢献 荒砥高校生が荒砥駅を飾る



6月9日、荒砥高校のボランティアサークル「あさがお」（代表：新野正輝さん）が、荒砥駅舎内の花壇にサルビアなどを植栽しました。当日は、21人のメンバーのうち13人が参加し、花壇に70株、プランター（10鉢）に30株を植え、プランターは、中央公民館正面入口に設置されました。「あさがお」では、今後も保育園や福祉施設などさまざまなところでボランティア活動を行う予定ということです。

命の大切さを学びました みどりりと花を育てるつどい



6月17日、白鷹土地改良区主催の「みどりりと花を育てるつどい」がこぐわ保育園で行われ、土地改良区理事などの指導のもと、園児40人がそれぞれひとつのプランターに、マリーゴールド3株ずつを植栽しました。「花が育つには土だけでなく、水やりも大切です。」と説明を受けると、元気に「はい！」と返事をしみんな上手に植えていました。植栽されたプランターは、保育園のほか、3カ所に設置されました。

いよいよ始動！ 戸籍電算化が始まりました



6月28日、役場で戸籍総合システム始動式が行われました。戸籍の電算化（コンピュータ処理）により、証明書が本籍や氏名など項目ごと横書きになるなど、わかりやすく、そして速やかに交付できるようになりました。置賜地区で4番目、県内で28番目の供用開始となったこの日、電算化となって第1号の戸籍証明発行となった樋口さおりさんに町長から新しい戸籍が手渡されました。

水田を産卵の場所に 浅立地区で排水路に「魚道」設置



5月21日、浅立地区の水田に、置賜農業高校の生徒が、魚が排水路から田んぼへ上りやすくする「水田魚道」の設置を行ないました。高校生の技術を実践してもらう県の「飛び出せ高校生技能実習で地域協働事業」の一環で実施され、諏訪堰土地改良区（高橋恭平理事長）関係者ら約40人も参加しました。今後は、定期的に魚道の通過状況をチェックし、新しい水田づくりに生かしたいということです。

おめでとうござります

特用林産功労者賞

守谷勝助さん（十王）

このたび、守谷勝助さんが、日本特用林産振興会の特用林産功労者賞を受賞されました。守谷さんは、昭和39年からシイタケ栽培に従事し、県内で最も早く菌床栽培に取り組み、栽培者の拡大に努めるなど、町及び県のシイタケの生産振興に大きく寄与されました。

また、品質の統一を図るため、生産組織を立ち上げ、産地銘柄確保にも尽力されました。これらの功績が認められた。このたびの受賞となりました。

